

業務の見直しと改善

-ジョブ・クラフティング概念と ECRS を用いて-

村山 孝道 (京都文教中学高等学校 事務長)

講師略歴

1996年に京都文教学園に入職後、大学の教務畑を中心に歩み、その後総務（学長秘書）や企画（教学企画）などの業務に従事。2021年4月より現職。大学コンソーシアム京都 SD 研修委員長、大学行政管理学会理事・研究研修委員等を歴任し、大学職員の人材開発に携わっている。現在、同志社大学大学院総合政策科学研究科博士後期課程に在籍し、大学職員の HRM（Human Resource Management: 人的資源管理）研究に従事している。

プログラム概要

大学職員の担う業務は年を追うごとにますます複雑化し、高度化しています。次々に現れる新しい仕事を前に目の前の仕事をこなすのがやっとなという大学職員は多いかもしれません。見方を変えれば活躍の場が増えているとも言えるでしょう。期待に応えるためには、まずは目の前のルーティン業務を見直し余力を捻出する必要があります。また、変化の激しい環境では上司がすべてを把握し、職務を設計して職員に与える、という伝統的なトップダウン・アプローチでは対応が難しくなっています。個々の職員は、与えられた業務を受動的にこなす存在ではなく、①仕事そのもの、②仕事を取り巻く他者との関係性、③仕事の意味や意義、を常に見直し再生産する存在（ジョブクラフター）となるのが、かつて無いほど求められています。本プログラムでは、それぞれが持ち寄った具体的な課題を、2つの概念を援用しつつ、グループワークを通じて業務改善プランを考えます。

主な受講対象者

係長相当級までのプレイヤーとしての職員及び、プレイヤーの意識や業務方法に変化を生みたいと考える管理職職員

到達目標

1. ジョブ・クラフティング概念を説明することができる。
2. ECRS 理論を説明できる。
3. 自身の担当する業務上の課題を一つ以上とりあげ、その改善策を提案できる。

日時

8月26日(木)9時30分～11時30分